12/10
TUE

鉾田二高花壇整備

鉾田二高農業科の２年生23人と先生方が、市役所・中央公民館・図書館、それぞれの玄関前にある花壇の手入れをしてくれました。

今回、市役所玄関前には、色とりどりの花と共に、白と紫の葉ボタンで大きな「ホコタ」という文字もつくってくれました。

鉾田二高の皆さん、ありがとうございました。

令和7年1月3日(金)

広報ほこた

令和6年12月10日(火)

市役所の花壇整備

農業科2年

鉾田

鉾田二高農業科

野菜をリヤカーで売り歩き

県立鉾田二高農業科の1年生23人がこのほど、自分たちで栽培した野菜をリヤカーに乗せて、鉾田市内各所を売り歩いた。

周辺地域などへの事前告知はせず、「偶然の出会いを通して地域とのふれあいを深めることも目的の一つとした」と同校教諭の益子透さん。同校と県立鉾田農業高が統合した2020年以降、農業科1年生の恒例の取り組みになっている。

リヤカーを路肩に止めて、野菜を販売する生徒ら

リヤカーに積んだのはハクサイ、ネギ、ダイコンなど8種類の野菜。生徒は5班に分かれ、それぞれに決めた販売コースを歩いた。

宮内七海さん(15)、男庭優太さん(16)、松葉蒼空さん(15)の班は、販売コースを学校周辺にした。

3人は、通りがかりの人に積極的に声をかけて、活動の趣旨や自分たちが育てた野菜の魅力を伝えた。声をかけられた人の多くが取り組みを理解して、笑顔を向けた。

野菜を購入した笹輪美智子さんは、「手頃な価格で新鮮。品質はプロ並み。売り歩く姿は頼もしい」と喜んだ。3人は、「野菜の栽培は苦労の連続。喜んで買ってもらえて、育てがいがある」と笑顔をそろえた。

令和7年1月7日(火)

よみうりタウンニュース

令和6年12月19日(木)

農作物販売実習(リヤカー販売)

農業科1年　農業と環境

育てたネギを対面販売

ＪＡほこた直売所で実習

茨城県立鉾田第二高

【いばらき】茨城県立鉾田第二高校の農業科1年生が16日、鉾田市のＪＡほこた農産物直売所「ファーマーズマーケットなだろう」で、店舗見学会と販売実習に臨んだ。

地域への理解を深めるとともに、自分たちが栽培した長ネギ販売を通して住民との交流を図るのが目的。1年生23人が参加した。

直売所見学では、横田淳一店長が生産物の流通や販売について説明。「お客さまには元気にあいさつしてください。第一印象が大事」と接客の心構えを説いた。

続いて、学校農場で約1年かけて自分たちで栽培した長ネギ12袋（1袋600㌘、200円）の値札貼りに従事。貼り終わった商品は店舗入り口前の店外商品棚に並べた。

平日昼下がりの店開きとあって来店者数は限られたが、近隣から訪れた40代の主婦2人は「安い」と声を上げ、複数束を購入していた。

引率した益子透教諭は「高温などの影響で栽培は大変だったが、生徒が一年かけて育てた長ネギ。購入者には満足してもらえるはず」と話し、生徒らの接客を見守っていた。

自分たちが栽培した長ネギを販売する生徒ら（茨城県鉾田市で）

1月18日(土)

日本農業新聞

1月16日(木)

ファーマーズマーケットなだろう見学会・販売会

農業科(1年)

鉾田二高生栽培 長ネギ自ら販売

JA直売所

農産物への理解を深めるとともに、地域貢献の意識を高めてもらおうと、鉾田市鉾田の県立鉾田二高（海老沢浩一校長）の生徒らが16日、同市飯名のJAほこた農産物直売所「ファーマーズマーケットなだろう」（横田淳一店長）で、販売実習を行った。

参加したのは、農業科の1年生23人。生徒らは栽培に携わった長ネギを袋詰めして持ち込み、店頭に並べた。ネギは1袋（約600グラム）200円で販売。生徒らが大きな声で「いらっしゃいませ」「鉾田二高で作ったネギです」などと呼び込むと、買い物客は足を止めて購入していた。

このほか、生徒らは直売所内を見学するなどして、地域への理解を深めるとともに、特産品の流通について学んだ。飯島朝飛さん(16)は「しっかりと育てたネギなので、おいしく食べてもらいたい」と話した。

横田店長は「接客を通し、栽培するだけではなく販売する楽しさを感じてほしい。（農業の）新たな魅力を見つけるきっかけになれば」と期待を寄せた。

ネギを販売する鉾田二高の生徒ら＝鉾田市飯名

1月20日(月)

茨城新聞

1月16日(木)

ファーマーズマーケットなだろう見学会・販売会

農業科(1年)

交流や地域貢献目指す

茨城県立鉾田第二高等学校

【茨城支局】創立100周年を迎えた鉾田市の県立鉾田第二高等学校は、農業科と食品技術科、総合学科があり、地域との交流や地域貢献を目指した授業を取り入れている。

農業科では、食用作物や園芸作物の栽培、農業機械などについて実習を中心に学ぶ。授業の一環として、毎年、生徒が育てた季節の草花を市役所の花壇に植え付けている。

5～6月には、生徒が種から育てたサルビアなどを植えたという。12月には2年生23人が植栽。参加した松川剣信さん(17)は「パンジー、ビオラ、葉ボタンの約300株を種から栽培しました。土作りも自分たちで行っています。ほかにも季節の花や野菜を作っているので、地域の皆さんに知ってほしい」と話す。市役所を訪れる地域の人たちからは毎年、好評を得ているという。

ほかにも、農業科では1年生が一輪車やリヤカーを使って学校周辺を売り歩く農産物販売会にも取り組む。

食品技術科では、栽培から販売までを学ぶ6次産業化に特化した授業や食品製造に関する実習などを行っている。授業の一つとして、社会人講師（イタリアンレストランのシェフ）によるイタリア料理講習会を年5回開く。湯浅洋之教頭は「毎年、専門的な知識を学ぶことができる講師に依頼するなどした授業を取り入れています」と話す。12月の授業に3年生14人が参加。授業を受けた塙知香さん(18)は「プロの技が加わることで本格的なイタリア料理の味に仕上がった」と笑顔で話す。

講師を務める小原健二さんは「生徒たちが料理に興味を持ってもらえれば教えたかいがある。使用する食材はしっかりした物を使うことを心がけている」と話している。

市役所の花壇に草花植栽

農業科の生徒が鉾田市役所の花壇に「ホコタ」と赤い葉ボタンで彩る。中央は岸田一夫市長

プロのシェフから指導を受ける食品技術科の3年生

鉾田市役所の花壇に植栽する農業科の2年生

1月22日(木)

農業共済新聞 -関東版-

交流や地域貢献目指す

農業科・食品技術科

茨城県内の高校生考案のスイーツコンテスト 鉾田

01月24日　17時48分

農業や食品について学ぶ県内の高校生が考案したスイーツコンテストが茨城県鉾田市で開かれました。

地域産業の活性化を図ろうと１０年前に始まったコンテストはことし、鉾田第二高校を会場に２４日、県内４つの高校の６チームがプレゼンの動画や実際のスイーツを提出する形で参加しました。
生徒たちはふだん農業や食品関連の学科で学んでいて、今回は学校の畑などで栽培した、果物や野菜を使ったオリジナルスイーツを考案しました。
このうちホームの鉾田第二高校は３チームが参加し、粉状にしたほうれん草の生地にクリームを挟んだ「マカロン」やサツマイモのペーストがのったカステラなどで挑みました。
また桜川市にある県立真壁高校はかぼちゃとほうじ茶をふんだんに使ったケーキで臨み、料理学校の教員などの審査員が試食をするなどして採点していきました。
審査の結果、最優秀には鉾田第二高校のカステラが選ばれました。
最優秀のカステラを作った３年生の女子生徒は「春からは料理関係の仕事に就職するので、この経験を社会に出てからもいかしたいです」と話していました。
また３年生の男子生徒は「鉾田らしいマカロンを作りました。野菜が苦手な人でも食べられるようなお菓子を作ることができました」と話していました。

１月24日(金)

茨城 NEWS WEB(NHK 水戸)

１月24日(金)

食品技術科

スイーツコンテスト(農場開催)

最優秀賞：県教育長賞(お芋の台湾カステラ)

優秀賞＆特別賞(鉾田二高産のジャムを使ったムース)

パワーリフティング

高和さん3位入賞 鉾田市長に報告

ウズベキスタンで開催されたパワーリフティングの大会に出場した日本製鉄鹿島、高和歩さん(23)が16日、鉾田市鉾田の市役所を訪れ、岸田一夫市長に結果を報告した。

高和さんは同市在住で市立鉾田南中、県立鉾田二高を卒業。高校卒業後に競技を始めたという。昨年12月に行われた「アジアクラシックパワーリフティング選手権大会」ジュニア部門(74キロ級)に参加し、スクワット部門で3位に入賞した。

高和さんは「ミスがあり内容は良くなかったが、楽しくできた」と大会を振り返り、今後に向けて「国体で3位以内を目指したい。気持ちを新たに、これまで以上に練習に取り組みたい」と抱負を語った。

表敬訪問した高和歩さん(右)＝鉾田市鉾田

1月24日(金)

茨城新聞

パワーリフティング(ウズベキスタン開催)

本校卒業生 高和歩さん 3位入賞

ソーセージ作り挑戦

鉾田二高生 講師から技術学ぶ

ソーセージ作りに取り組む生徒ら＝鉾田市徳宿

県立鉾田二高（鉾田市鉾田、海老沢浩一校長）は23日、同市徳宿の農場実習棟で、外部講師を招きソーセージの製造技術を学ぶ講習会を開いた。

講習会には食品技術科の2年生約30人が参加。講師は、ハムやソーセージを製造販売するMETZGER EI TAMON（メッゲライ タモン、水戸市）工場長の稲石太門さん(44)が務めた。

稲石さんは、生徒に手本を示しながら指導。ひき肉や氷水、スパイスなどを手で練る際の注意点として、「水は数回に分けて入れ、肉となじむようにする」「ボウルの下に氷を敷くなどして、肉の温度が10度以下になるようにする」ことなどを伝えた。

生徒たちは肉を練った後、羊腸に詰める作業にも挑戦。肉を充填（じゅうてん）機に入れ、加減しながら羊腸に詰めていった。最後は同じ大きさになるよう丁寧にひねり、ソーセージを完成させた。

日高楓菜さん(16)は「腸に詰めるのは難しかったが、うまくできた。機会があれば、また挑戦したい」と笑顔を見せた。

稲石さんは「手作りのおいしさを感じてもらえたのではないか。工夫すれば自分でも作れることを知ってほしい」と話した。

（松本篤史）

1月29日(水)

茨城新聞

1月23日(木)

社会人講師によるソーセージ実習

食品技術科(2年)

茨城・学校産・地元産スイーツコンテスト

鉾田第二高 おいしくV

【いばらき】茨城県農業関係高校による「学校産・地元産食材を使ったスイーツコンテスト」が1月24日、鉾田市の県立鉾田第二高校農場実習棟で開かれ、同校食品技術科チームの「お芋の台湾カステラ」が最優秀賞に選ばれた＝写真。

同コンテストは、農業の6次産業化への理解を深めるとともに、地域産業で活躍する人材を育成するのが目的。今年で10回目。

コンテストには、同校の他、大子清流高校、水戸農業高校、真壁高校のいずれも県立の4校6チームが参加。考案したスイーツの工夫点などのプレゼンテーション動画と、実際のスイーツの外観、試食審査で順位を決めた。

お芋の台湾カステラ

鉾田第二高校

審査は、調理技術専門学校講師や大手スーパー食品担当者、県洋菓子協会長ら5人が務めた。審査委員長を務めた中川学園調理技術専門学校の真嶋伸二さんは「作品はどれも素晴らしく、評価の差はほとんどなかった。商品になり得るかで最終評価した」と講評した。

最優秀賞に輝いた作品は、ふわふわとした見た目が特徴の台湾カステラに、学校産サツマイモのペーストを飾ったスイーツ。チーム代表の鉾田第二高食品技術科3年、鬼澤美咲さんは「鉾田の名産を活用したスイーツで受賞できてうれしい。何度も試作した経験は卒業後も生かせると思う」と受賞を喜んだ。

2月1日(土)

日本農業新聞 北関東ページ

食品技術科

1月24日(金)

第10回茨城県農業関係高校 スイーツコンテスト(農場開催)

最優秀賞：県教育長賞(お芋の台湾カステラ)

優秀賞＆特別賞(鉾田二高産のジャムを使ったムース)

茨城 鉾田 高校生がメロンの「接ぎ木」学ぶ授業

02月18日　18時15分

メロンの産出額が全国一の茨城県鉾田市にある高校で、メロン作りに欠かせない「接ぎ木」について学ぶ授業が開かれました。

１８日、鉾田市の鉾田第二高校で行われた授業では、メロン農家の山口正重さんが講師を務めました。
山口さんは最初に、接ぎ木は病気に強く、品質のよいメロンを育てる上で、欠かせない一方、技術を持つ農家が減っていることを説明しました。
このあと実習が行われ、生徒たちは先端を細く加工した竹串で土台となる病気に強い苗の茎に小さな穴をあけ、そこに茨城特産の品種「イバラキング」の茎を差し込んでいきました。
生徒たちは、山口さんにアドバイスをもらいながら、苗が傷つかないよう慎重に作業を進めていました。
今回接ぎ木をして作った苗は、学校の敷地内で育ててことし７月中旬ごろに収穫するということです。
参加した生徒は「若手の１人として技術を広げていきたいです」とか「かなり集中しないとできなくて、難しかったです」と話していました。
山口さんは、「産地を守るためにも、生徒たちには接ぎ木の技術をしっかり学んでもらいたいです」と話していました。

2月18日(火)

首都圏 NEWS WEB(NHK 水戸)

2月18日(火)

メロン接木苗講習会

(農業科2年)

メロン接ぎ木に挑戦

鉾田二高生 市特産品の技術伝承

生徒らを前に接ぎ木を指導する山口正重さん（右）＝鉾田市徳宿

農業技術の一つである「接ぎ木」を学んでもらおうと、県立鉾田二高（鉾田市鉾田、海老沢浩一校長）は18日、同市徳宿の農場で接ぎ木苗生産技術講習会を開いた。鉾田園芸出荷組合代表の山口正重さん(62)を講師に招き、農業科の2年生17人が同市特産品のメロンの接ぎ木に挑戦した。

接ぎ木は、2種類以上の植物をつなぎ合わせる技術。メロン栽培では、土壌病害などの対策として活用されている。

山口さんは「挿し接ぎ」と呼ばれる接ぎ方を指導。病害虫に強い品種を「台木」とし、県オリジナル品種「イバラキング」の苗を「穂木」として接合した。

生徒らは、先端が細く加工された竹串を使って台木の茎に穴を開け、かみそりで削った穂木の茎を挿していった。最初は苦戦していた生徒も徐々に慣れ、手際よく作業した。

完成した接ぎ木苗は、温室で育苗用ポットに移植。今夏の収穫を目指すという。鈴木愛梨さん(16)は「つなぎ合わせることで強い苗ができることに驚いた。今後学んだことを生かせるようにしたい」と意欲を見せた。

同校などによると、自身で接ぎ木を行う農家が減少し、次世代への技術伝承が課題となっているという。山口代表は「接ぎ木を伝承する人が少なくなってきているので、どこかで生かしてもらえるとうれしい。産地を守るためには必要」と呼びかけた。

（松本篤史）

2月26日(水)

茨城新聞

2月18日(火)

メロン接木苗講習会

(農業科2年)

第２５回 茨城新聞学生書道紙上展

高 2

澤田かれん(水戸第一)田村百合(同)齋藤夏輝(水戸第二)長谷川陽香(水戸第三)古川真帆(同)岸川嘉恋(水戸桜ノ牧)田口里菜(緑岡)荒井玲依(水城)大江優嘉(同)菊池倫子(同)出頭優菜(同)篠田優那(同)吉尾爽弥(同)吉澤龍之心(同)白石真帆(常磐大学)赤津結唯(水戸葵陵)飯岡妃莉(同)伊東琴音(同)雲井琴那(同)猿田雪乃(同)根本栞恩(同)森島菜々美(同)山口裕加(同)岩井羚(那珂)三澤真(多賀)吉本大輝(同)大串彩夏(日立第一)瀧凪咲(日立第二)水谷桜子(日立北)倉田希乃花(明秀学園日立)小島優果(太田第一)藤原もも(鉾田第一)豊島梨花(鉾田第二)藤井智恵(鹿島)髙橋菜奈(清真学園)安田椋羅(同)吉村愛彩(つくば国際大学東風)一色柚乃(茗溪学園)海老原野絵(同)加藤詩埜(同)髙橋美羽(同)萩原愛珠(同)林万尋(同)林和香芭(同)福田詩鶴(同)安衣咲(S)青木律子(牛久栄進)大川翔子(同)西山心陽(同)半沢ひより(同)平塚心菜(同)池田美那(竜ヶ崎第一)倉持琉生(同)鈴木沙空(同)滝知果(同)市川万葉(下館第二)落合心美(同)木村奈心美(同)永嶋優衣(同)野口諒介(同)

2月19日(水)

茨城新聞

第25回 茨城新聞学生書道紙上展

2年7組 豊島梨花さん(奨励賞)

自転車ヘルメット 生徒に着用呼びかけ

鉾田署と鉾田二高

鉾田警察署（鈴木敦雄署長）と県立鉾田二高（海老沢浩一校長）は12日、鉾田市鉾田の同校正門付近で、自転車乗車時のヘルメット着用を促進する街頭キャンペーンを実施した。

キャンペーンには同署員や同校職員、生徒会のメンバーら約10人が参加。下校中の生徒らに「自転車に乗る時はヘルメットの着用をお願いします」などと呼びかけながら、チラシや反射材の付いたたすきを手渡した。

同署の矢吹真也交通課長は「自転車の交通事故では頭部が致命傷となる。頭を守ることが自分の命を守ることにつながるので、ぜひかぶってほしい」と話した。

自転車乗車時のヘルメット着用を呼びかけた街頭キャンペーン＝鉾田市鉾田

2月19日(木)

茨城新聞

2月12日(水)

鉾田二高　交通安全キャンペーン

鉾田二高生が農作物販売

市役所で実習 起業家精神育成へ

鉾田市役所で販売実習を行う生徒ら＝鉾田市鉾田

県立鉾田二高（鉾田市鉾田、海老沢浩一校長）の生徒たちが栽培した農作物や、製造した加工品などを販売する実習「定期市」が19日、鉾田市役所で開かれた。

定期市は、消費者への販売を通し起業家精神を育成するとともに、地域住民らに同校をPRするのが狙い。総合学科メディア・マーケティング系列に所属する生徒約30人が参加。農業科の生徒が栽培した野菜や、食品技術科の生徒が製造した菓子などを販売した。

長ネギやニンジン、ヤマイモなどの野菜、もち米のほか、キク科のサイネリアが並び、洋菓子「芋カタラーナ」、ガトーショコラも人気を集めた。生徒たちは来庁者に声をかけたり、会計をこなしたりして販売業務を体験。にぎわいを見せ、岸田一夫市長も訪れた。

のぼり旗や商品ポップなどは、生徒たちがデザインしたという。杉野萌々さん(17)は「文字の大きさや色、イラストなどを工夫して、興味を持ってもらえるようなポップを作った。実際に販売できたり、地域の方とコミュニケーションが取れたりして、いい機会となった」と笑顔を見せた。

（松本篤史）

2月22日(土)

茨城新聞

2月19日(水)

鉾田市役所販売実習

(メディア・マーケティング系列2年)

吐玉泉

▲鉾田市飯名のJAほこた農産物直売所「ファーマーズマーケットなだろう」できのう、県立鉾田二高（同市鉾田、海老沢浩一校長）の生徒らによる花や野菜の苗と菓子の販売会が開かれた＝写真。

▲販売会は、地場産業への理解を深めるとともに、地域貢献の意識を高めてもらおうと企画。農業科の2年生25人と食品技術科の3年生5人が参加した。同校で育てたマリーゴールドとサルビアの苗、トマトやナスなどの苗のほか、食品技術科の生徒が作ったシフォンケーキなどを販売した。

▲生徒は「育てた苗を販売してます」「家庭菜園にいかがですか」と買い物客を笑顔で呼び込んだ。農業科の松川剣信さん(16)は「お客さんの笑顔が見られてうれしい」、食品技術科の宮崎愛梨さん(17)は「頑張って作った。皆さんにおいしく食べてもらいたい」と話した。

令和６年５月２日　茨城新聞

４月３０日　なだろう販売会

鉾田

農業科生徒が花苗販売

鉾田一高生　地元JA直売所で

「花苗、野菜苗はいかがですか」と、呼びかけて販売する生徒たち

「鉾田一高産の花や農産物の魅力を、もっと知ってもらおう」と、県立鉾田一高農業科の生徒らがこのほど、鉾田市飯名のJAはたファーマーズマーケットなだろうで、草花と野菜の苗の販売会を開いた。

販売会は、授業の一環で不定期で行っているもの。

そろえた苗は、マリーゴールド、サルビア、白ナス、ブロッコリー、ピーマン、トマトなど。会場では「安いですよ」「いい苗に育ちました」などと、来場者を呼び込みながら元気に販売。用意した苗がほぼ売り切れるなどにぎわった。

販売会には、食品技術科の生徒5人も参加。手作りのシフォンケーキやマドレーヌ、新作のクッキー「ショートブレッド」を販売した。

マリーゴールドの苗を16個購入した水戸市の和田佳代子さんは、「花がとっても大きくて、苗が丈夫そう。高校生たちの応援にもなれば」と、笑顔。

農業科2年の和家直実さん（16）は、「商品を喜んでもらえて、もっといい作物を作りたいという気持ちになった。うれしかった」と、話していた。

次回は秋に、果物などを販売する予定。

令和６年５月９日よみうりタウンニュース

４月３０日なだろう販売会

地域農業活性化考える

鉾田二高で講義

東京農大准教授 阿見町事例に解説

講義する東京農業大学栄養科学科の秋山聡子准教授＝鉾田市鉾田

農業を取り巻く市場動向を知り、地域農業の現在と未来を考えようと、鉾田市鉾田の県立鉾田二高（海老沢浩一校長）で15日、東京農業大学栄養科学科の秋山聡子准教授を招いた講義「食べ方を科学する～消費から地域農業の活性化を考える～」を開いた。

講義は農業科と食品技術科の2年生約60人が受講。総合学科の約30人にはオンラインで配信された。

秋山准教授は、「農産物の市場価格は需要と供給のバランスで決まる」と前置き。続いて、農産物の中には生産しやすく、栄養価が高い（機能性がある）にもかかわらず、「味が好ましくない」「消費の仕方が分からない」ことで需要が低い物があると指摘。そのような場合、調理方法を知らせたり、消費できる場所を増やしたりすることにより需要が高まり、市場価格を高め、農業の活性化にもつながると解説した。

具体例として、阿見町の特産物のレンコンと、日本で初めて同町で試験栽培されたというキク科の植物、ヤーコンの消費拡大を目的にした事例を挙げた。外食向けのメニューを開発したり、食物繊維を豊富に含むレンコンとヤーコンを粉末にすることで、便秘改善など高齢者の健康問題に役立てたりする取り組みもあることを紹介した。

さらに、6次産業への関わり方について、秋山准教授は「自分が生産者になった時に、1人で加工や流通、販売を行うのも良いが、自分の強みを生かしながら、誰かと連携して一緒に取り組むことも大事」と呼びかけた。

食品技術科2年、手塚維翔真さん(17)は「地域農業の活性化について学び、誰かの役に立てると知った。自宅で料理する機会を増やし、調理方法などを考えたい」と意欲を見せていた。

（松本篤史）

令和６年(2024年)5月24日(金)

茨城新聞

５月１５日(水)

外部指導者招聘による農業に係る出前授業

ガザニアやサルビア植栽

鉾田三高生 市役所の花壇彩る

鉾田市鉾田の県立鉾田二高（海老沢浩一校長）の生徒らが21日、初夏の陽気の中、同市役所などの花壇に花を植えた。生徒たちは赤や黄、オレンジなど色鮮やかな花で公共施設を彩った。

花を植えたのは、栽培技術を中心に総合的に農業を学ぶ、同校農業科の2年生24人。市役所と、同敷地内の中央公民館、図書館の花壇に、校内で育てたガザニアとサルビア、マリーゴールド約250株を丁寧に植えていった。

同校では地域連携活動の一環として、毎年春と秋の年2回、これらの花壇の手入れを実施。栗橋遼さん（16）は「みんなで育てた花を市役所に植えられてうれしい。利用者の方にも喜んでもらいたい」と笑顔を見せた。

（松本篤史）

鉾田市役所の花壇に花を植える県立鉾田二高の生徒たち＝同市鉾田

令和６年５月30日(木)

茨城新聞

５月21日(火)

市役所花壇への草花苗植え付け

農業を学ぶ高校生と小学生が一緒に田植え 鉾田

06月04日　11時47分

農業がさかんな鉾田市で、農業を学ぶ高校生と地元の小学生が一緒に田植えを体験しました。

鉾田市にある県立鉾田第二高校は農業科があり、毎年、この時期に農業に理解を深めてもらおうと地元の児童を招いて田植え体験を行っています。
４日は、高校の敷地にあるおよそ１０アールの実習用の田んぼに１年と２年の高校生あわせて３０人と、地元の鉾田北小学校の５年生６５人が集まりました。
子どもたちは、水を張った田んぼに入り、ロープに均等につけられた赤い印に沿って、２０センチほどに育った「マンゲツモチ」というもち米の苗を丁寧に植えていきました。
高校生たちは児童たちについて、苗を３、４本ずつ分けてまっすぐに深いところまでしっかりと植えるようになど丁寧に指導していました。
参加した女子児童は「楽しかったです。お米が大きく育ってほしいなと思いながら植えました」と話していました。
高校１年の男子生徒は「農業の楽しさとかおもしろさが伝えられたらいいなと思います」と話していました。
高校生と児童は、１０月上旬には稲刈りも一緒に体験する予定だということです。

令和６年６月４日(火)

NHK 水戸放送局(茨城 NEWS WEB)

６月４日

鉾田北小学校の水稲栽培体験学習

泥だらけで田植え 農業へ理解深める

鉾田二高

鉾田市鉾田の県立鉾田二高（海老沢浩一校長）農業科1年生による田植えの体験学習「御田植祭」が5月30日、同市徳宿の同校農場にある水田で開かれた。同科の24人が泥だらけになりながら丁寧に手植えした＝写真。

はだしなどで水田に入った生徒たちは、教員から「苗は3、4本ずつ一緒に（植えて）」などと指導を受けながら、田植えに挑戦。ぬかるむ水田で、泥に足を取られるなど悪戦苦闘していた生徒も、次第にこつをつかみ手際よく苗を植えていった。

植えたのは、もち米のマンゲツモチで、秋には稲刈りやおだがけも行う。コメは餅つき体験などに使われるという。

体験学習は、コメ作りの流れや大変さについて学び、農業に対する理解を深めるのが狙い。7日には、食品技術科の1年生も田植えを実施する予定。

手植えは初めてという農業科1年、永作宏斗さん(15)は「手植えの大変さを知った。自分で植えた苗が成長し、食べられるのはうれしい」と話した。体験後には、食品技術科の2年生が調理した豚汁と、おにぎりが振る舞われ、生徒らは笑顔で頬張っていた。

令和６年６月６日(木)

茨城新聞

５月 30 日(木)

田植えの体験学習「御田植祭」

田植え「楽しい」

児童、高校生と体験学習

鉾田北小

米作りの大変さを知り、食文化に関心を持ってもらおうと、鉾田市立鉾田北小（田口雅偉校長）の田植え体験学習が4日、同市徳宿にある県立鉾田二高（海老沢浩一校長）農場近くの水田で開かれた。5年生65人が参加し、ぬかるみに悪戦苦闘しながらも、同高農業科の生徒らと手植えを楽しんだ。

両校による田植えは、毎年の恒例行事。この日は同科の1、2年生計30人が児童をサポートした。

同高の教員から「苗は3、4本ずつ分けて」「真っすぐ下に、なるべく深い所まで（植えて）」などと教わった児童たちは、素足で田んぼに入り、田植えに挑戦。泥だらけになりながら、高校生との会話を楽しむなど笑顔で苗を植えていった。

鉾田二高の生徒らと田植えを楽しむ鉾田北小の児童たち＝鉾田市徳宿

植えた苗は、もち米のマンゲツモチ。秋には両校で稲刈り体験を行う。

いずれも田植えは初めてという同小の新堀百花さん(10)は「楽しかった。大きく育ってほしいと願って苗を植えた」、中根瑠都輝さん(10)は「丁寧に教えてくれたから上手にできた。おいしいお米に育ってほしい」と感想を述べた。

児童たちのそばで植え方を丁寧に教えた同科1年、中根優記さん(15)は「楽しんでもらえたみたいでうれしい」と笑顔を見せた。

（松本篤史）

2024年6月12日(水)

茨城新聞

6月4日(火)

鉾田北小学校の水稲栽培体験学習

4コマ小美玉暮らし

Vol.42「メロンマン」

小美玉の日常をゆる～く描く4コマ漫画。小美玉のクリエイターが3か月交代で担当します。

作者紹介　やまこう

小美玉市出身。絵を描くことが昔から好きです！将来の夢は漫画家になることで、今は高校に通いながら家で漫画を描いています。高校生の間に漫画家になって昔を驚かせたいです！

広報おみたま令和６年６月号
（第２１９号）に掲載
農業科２年　山本康太さんの作品

サツマイモの苗植え体験

園児と「おいしくなれ」

鉾田三高生

県立鉾田二高（鉾田市鉾田、海老沢浩一校長）農業科の2年生24人が7日、同市徳宿の同校農場で、市立鉾田幼稚園（同市鉾田、小沼一夫園長）の園児22人を招き、サツマイモの苗植えを行った。

生徒たちが「（苗を）斜めに差し込んで」「上から土をかぶせよう」などと説明。長靴で畑に入った園児らは、緊張の面持ちだったが次第に打ち解け、「おいしくなって」と願いながら、「紅はるか」の苗約120本植え付けた。

このほか、教員らが農場内を案内。園児は農業用ハウスでトマトやメロンの生育状況を見たり、牛に餌をあげたりして楽しんだ。

同校の藤崎あんなさん(16)は「まずは農業を楽しんでもらえたらうれしい。みんな頑張って植えていたので、収穫までしっかり育てたい」と笑顔を見せた。小沼園長は「(園児たちには)農作物を育てる大変さを感じてもらいたい。高校生との交流も見られて良かった」と話した。

サツマイモの苗を植える生徒と園児たち＝鉾田市徳宿

令和６年６月14日(金)

茨城新聞

６月７日

自然体験学習(サツマイモ栽培体験)

鉾田一高・二高 野球で激突

夏大会目前 恒例の練習試合

7月に開幕する全国高校野球選手権茨城大会を前に、県立鉾田一高と県立鉾田二高の野球部が5日、鉾田市鉾田の鉾田一高野球場で練習試合を行った。両校の関係者や地元住民、近隣の中学生らが観戦に訪れ、球児のプレーに熱視線を送った。

市中心部の高台に道路を挟んで向かい合う両校の対戦は、夏の大会前の恒例となっている。

試合は、序盤には両校投手が踏ん張り膠着状態が続いたが、後攻の鉾田一が四回に2点を先取した。リードされた鉾田二は打線が奮起し、六回に3点を奪い逆転。七回と九回にも2点ずつ加えて突き放した。鉾田一は好機であと一本が出なかった。試合後、懸命にプレーした選手らに、観客から大きな拍手が送られた。

鉾田一高3年、三井伊吹主将(17)は「課題は山積み。ベスト8の目標に向かって、悔いが残らないように頑張りたい」と抱負を語った。鉾田二高3年、窪咲翔主将(17)は「四回に点を取られた後すぐ取り返せて、打線もつながったので、いい試合ができた。この流れに乗っていきたい」と意気込んだ。

（松本篤史）

多くの地元住民らが訪れた県立鉾田一高と県立鉾田二高の練習試合＝鉾田市鉾田

令和６年６月16日(日) 茨城新聞掲載

６月５日「鉾田一高・二高 野球で激突」

花壇を整備し地域に貢献

鉾田第二高校農業科２年生

自分たちで育てた花、市役所などに植え

花壇に花を植える生徒たち

茨城県立鉾田第二高等学校（海老澤浩一校長）農業科はこのほど、鉾田市役所や中央公民館、市立図書館の花壇を整備した。農業科2年24人が汗を流し、自分たちで育てた花々で花壇を鮮やかに彩った。

同校では、地域貢献と同科の活動を知ってもらう機会として、毎年春と秋の2回、花壇の整備に取り組んでいる。生徒らが授業で種から育てたマリーゴールドやサルビア、ガザニアなどを丁寧に植え付けた。

同科2年生の栗橋遼（はる）さんは「暑くて大変だった。多くの人に喜んでもらいたい」と思いを話した。

担当した同市財政課の職員は「花壇を整備してもらえてありがたい。季節のきれいな花を来庁者に見てもらえれば」と話した。

令和６年６月21日(金)

日本農業新聞 茨城支局

５月21日(火)

市役所花壇への草花苗植え付け

講師招き調理実習
地産地消理解深め

鉾田二高

鉾田市鉾田の県立鉾田二高（海老沢浩一校長）で20日、外部講師を招いた「スキルアップ料理講習会」を開き、総合学科生活科学系列の2年生7人が同市産の食材を使った調理実習を行った。講習会は、市健康増進課職員2人と市食生活改善推進員協議会の推進員3人が講師を務め、イワシのつみれ汁を調理した。

推進員らが食材の特徴や調理の下準備などを説明して実演。生徒たちは、慣れた手つきでネギやダイコン、ニンジンを切ったり、イワシの下処理をしたりして調理に取り組んだ。イワシはうろこや、頭、はらわたを取り、洗って手で開いてから骨を除き、包丁でたたいた。

初めてイワシを手で開いたという福田琉斗（りゅうと）さん(17)は「地域の方と話す時間が多く、こつも教えてもらえた」と振り返り、安藤優美さん(16)は「おいしくできた。学んだことを生かして、家族にも料理を作りたい」と笑顔を見せた。

市食生活改善推進員協議会の推進員と調理に取り組む鉾田二高の生徒ら＝鉾田市鉾田

令和６年６月28日(金)

茨城新聞

６月20日(木)

生活科学系列「スキルアップ講習会」

5/21 TUE 鉾田二高生 花壇整備

鉾田二高の生徒さんと先生方が、市役所・中央公民館・図書館の玄関前花壇に綺麗な花を植えてくれました。毎年綺麗に手入れしていただき、来庁者の方や職員も大変癒していただいております。

令和６年７月３日(水)発行

広報ほこた　p.10 -topics-

５月21日(火)

市役所花壇への草花苗植え付け

鉾田二 猛攻37得点

鉾田二37－1海洋

1イニング28点 県最多記録更新

【評】鉾田二は打線が爆発。23安打37得点で海洋を圧倒した。1点を追う初回、無死二塁の好機で2番の松川が適時三塁打を放ち同点。相手の中継ミスの間に打者走者も本塁に生還し、すぐさま逆転に成功した。二回には打者三巡の猛攻で28得点を加え、突き放した。海洋は打線が1安打、守備が10失策と精彩を欠き、投手陣も踏ん張れなかった。

㉔…“打ち勝つ野球”を目指す鉾田二が真骨頂を発揮し、37得点と快勝した。

二回には県の1イニング最多得点記録を更新する28得点を挙げた。相手の失策も重なったとはいえ、16安打を集中。豪打の秘訣は選手の個人練習にあった。「自主性を大切にしている」という谷田部駿也監督(27)の言葉通り、選手は自身の課題克服のため、地道な努力を続けてきた。

この試合で3安打4打点とチームをけん引したリードオフマンの小原悠暉(2年)は、「ライナー性の打球にこだわっている」。レベルスイングを意識し、毎日のトスバッティングを欠かさず行ってきた。

次の相手は夏前の練習試合で競り負けた水海道二。谷田部監督は「自分たちの野球をしていきたい」と2回戦を見据えた。

鉾田二・松川剣信内野手(2年)　先制された

海洋―鉾田二　2回鉾田二1死満塁、鈴木の適時打で生還する二走の長峰柊＝ひたちなか市民、及川隆史撮影

	鉾田二	打	安	点	振	球
	小原	5	3	4	0	1
	松川	5	2	3	0	0
	長峰	5	2	1	0	0
⑧	石崎	5	2	2	0	1
⑤	浜野	4	2	2	0	1
⑥	4	1	2	3	0	1
④	6	4	0	7	0	0
H	菊地	1	0	0	2	1
②	米川	6	3	7	0	0
④	長峰柊	3	2	1	0	2
⑦	海老沢	3	0	0	1	2
⑦	3	0	0	2	0	1
⑨	大越	4	2	3	0	2
⑨	鈴木	3	2	2	4	0
9	浅田	1	1	1	0	0
犠	盗失併残					
1	3 1 0 7	4	1	2	3	3 0 2 1 4

投	手	回	数	打	安	振	球	失
井	関	1	5/3	15	7	0	4	11
阿	部		4/3	10	4	0	4	9
井	関		5/3	14	8	1	2	10
ショ		2		17	4	1	4	7
	篠	3		11	1	5	2	1
浜	野	2		7	0	3	1	0

令和６年７月９日(火)

茨城新聞

７月８日

第 106 回全国高校野球茨城大会

-1 回戦 vs 海洋高校 ひたちなか球場-

広報おみたま

令和６年７月号

１１日(木)発行

（第 220 号）に掲載

農業科２年

山本康太さんの作品

鉾田二、逃げ切る

鉾田二 5－2 水海道二

【評】鉾田二が好継投で逃げ切りに成功した。1点差を追う二回、1死満塁から菊地の内野安打で同点に追い付き、松川の右中間を破る3点三塁打で勝ち越した。投げては2点差とされた四回に先発羅から松川に継投。ピンチを防ぎ、その後は反撃を許さなかった。

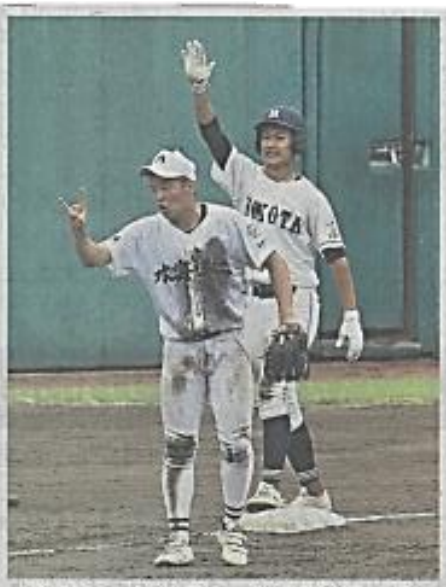
松川、投打でけん引

水海道二はスリーバント失敗が3度あるなど、攻撃のリズムを出せなかった。

①…鉾田二打線の中軸、松川剣個（2年）がチームを勝利へ導いた。二回、1点を返し同点とした後、2死満塁の場面で打席に入り「ストレートを狙っていた」と外角の直球を強振。打球は右中間を割る走者一掃の適時三塁打となり「最高だった」と喜びを爆発させた。投手としても四回2死満塁のピンチからマウンドに上がり好救援。チェンジアップで相手打線を翻弄し、無失点で最終回まで投げ抜いた。

同校史上初の3回戦突破まであと1勝。「全力を出して頑張る」と必勝を誓った。

鉾田二・谷田部駿也監督（27）打撃の調子が上がってきている松川にいいところで回ってきてくれた。うちの高校は3回戦を突破したことがないので、創立100年の節目の年に新しい歴史をつくりたい。



鉾田二―水海道二　2回裏鉾田二2死満塁から走者一掃の右中間を破る適時三塁打を放ち、塁上でベンチの声援に応える松川＝笠間市民

◇笠間市民＝第2試合
▽2回戦

水海道二	100100000	2
鉾田二	04000001×	5

▽三塁打　松川▽二塁打　荻野▽試合時間　2時間6分▽審判　荻原、大倉、梅宮、比企

水海道二	打	安	点	犠球
遠藤町田	2	0	0	2
③ 柿沼	1	0	0	0
⑧ 7小松崎	4	1	1	1
⑥ 9鳥見	4	0	0	1
⑨ 宮下	4	2	1	0
⑦ 染谷	4	3	0	0
R 8吉田	0	0	0	0
④ 深沢	4	1	0	1
② 竹上	4	1	0	1
① 片野	4	0	0	1
⑤ 永瀬	2	0	0	2
H 藤井	1	0	0	0
犠盗失併残				
0 4 2 0 8 3 4 8 2 9 3				

鉾田二	打	安	点	犠球
⑨ 菊地	4	1	1	0
⑧ 小野	3	1	0	1
③ 1松川	4	2	3	0
④ 石崎	3	1	0	0
① 5羅	3	0	0	1
② 米川拓	4	2	0	1
⑤ 浜野	4	1	0	2
⑦ 大越	2	0	0	1
H 長峰祥	1	0	0	0
7 海老沢	0	0	0	0
⑥ 鈴木	4	0	0	1
犠盗失併残				
2 2 1 1 7 3 2 8 4 7 2				

投手	回数	打安	野球	失
片野	8	3	6	8
羅	3⅓	2	0	5
松川	5⅓	1	7	3
		5	3	4
		3	2	0

令和６年７月15日(月・海の日)

茨城新聞

７月14日(日)

第106回全国高校野球茨城大会

-2回戦 vs 水海道第二高校 笠間市民球場-

高校生が取り組み発表

県学校農業クラブ連盟大会

農業を学ぶ生徒たちが日頃の取り組みを発表する「県学校農業クラブ連盟大会」が5日、水戸市内で開かれた。今年は6校86人が出場し、"農業の甲子園"ともいわれる「農業クラブ全国大会」を目指して熱弁を振るった。

県学校農業クラブ連盟大会は年1回開催され、今年で76回目を迎えた。「プロジェクト発表」と「意見発表」の2部門に分かれて実施。各部門で①農業生産・農業経営②国土保全・環境創造③資源活用・地域振興をテーマに、日頃の成果や考えを発表する。

今年参加したのは、大子清流高▽水戸農業高▽石岡一高▽江戸崎総合高▽真壁高▽鉾田二高―の農業について学ぶ六つの県立高校の生徒たち。

プロジェクト発表会には6校79人が参加。「農業生産・農業経営部門」では大子清流高の生徒7人が講話した。同高で低農薬で栽培したコンニャク芋の加工品「生芋刺し身コンニャク」「生芋板コンニャク」の製造、販売について報告。「本物が持つ風味は幅広い層の心を打つ。ぜひご賞味ください」と締めくくった。

「甘い香りに誘われて」と題してイチゴの生パスタの取り組みについて報告した水戸農業高の瀬谷美羽さん＝水戸市内

水戸 6校86人、成果披露

また、水戸農業高の生徒8人は、同部門で、特大ニンニクの産地化についてまとめた。春腐れ病の予防法の確立と3Lサイズ以上のニンニク栽培の実証試験などを挙げ、「栽培法の確立を目指したい」とした。

意見発表会は4校7人が出場。「国土保全・環境創造」部門で、水戸農業高1年、瀬谷美羽さんが「甘い香りに誘われて～イチゴの生パスタがもたらすもの」と題して講話。「高校生が発信することで、廃棄量の削減につながると思う。（今後も）調理方法などを考えていきたい」と述べた。

同じ部門で、鉾田二高2年、酒井仁弥さんは「殺処分ゼロを目指す私の夢」について発表した。「食の力を生かし、将来は、殺処分の実態や飼う責任について考えてもらえるカフェを開きたい」と目を輝かせた。

審査の結果、3校3人が最優秀賞に輝いた。8月の関東大会へ出場し、全国大会を目指す。（鈴木聡美）

〈プロジェクト発表〉大子清流高「DAINOU Corporation」▽水戸農業高「食を歩む～食を通した歩みとつながり▽真壁高「馬糞肥（ばきゅうひ）を活用した循環型農業への取り組み」〈意見発表〉水戸農業高 島田基作さん▽鉾田二高 酒井仁弥さん▽水戸農業高 斉藤麗奈さん

令和６年７月17日(水)

茨城新聞

７月５日

第76回 県学校農業クラブ連盟大会

-水戸市内にて-

霞ケ浦 大勝

霞ケ浦8－1鉾田二

【評】序盤に大量リードを奪った霞ケ浦がコールド勝ちを収めた。1点を追う1回裏、1死から矢田貝の三塁打と羽成の右犠飛で同点とすると、2死二塁からの連打で逆転した。二回は鹿又の適時打など打者11人を送り5点を奪った。先発の真仲は二回以降立ち直り、5回1失点と好投した。

鉾田二は小原の安打などで先制したが、二回以降は打線が沈黙した。

霞ケ浦－鉾田二　投打に活躍した霞ケ浦の真仲＝ジェイコム土浦

真仲、攻守で存在感

◎…霞ケ浦の先発、真仲唯歩投手（3年）が投げては5回1失点、打っては2打点と攻守で存在感を示した。

初回は四球や適時打などで先制点を許したが、すぐさま1回裏に打線がつながり逆転。自らも追加点を奪う適時打を放ち突き放した。

投球も尻上がりに調子を上げ、三、五回は三者凡退に抑える好投。自らの適時打の場面を「チームに勢いがついてよかった」とはにかみ、次戦に向け「甲子園に出られるよう、一戦一戦勝ち進みたい」と意気込んだ。

真仲立ち直った

霞ケ浦・高橋祐二監督

初回に先制されたが、（真仲唯歩投手が）その後は立ち直り、きちんとゲームをつくってくれたのでよかった。

「爪痕を残せた」鉾田二全力発揮

◎…鉾田二は地力の差を覆せず七回コールド負け。初の4回戦進出はならなかったが、力を尽くした篠崎翔主将（3年）は「今までで一番悔しい試合だった」とやり切った表情で振り返った。

一回表の攻撃で1点を先取。裏のマウンドに登った篠は、先頭打者から三振を奪う上々の立ち上がりだった。しかし、その後は打ち込まれ逆転を許した。「ベストの投球はできていた」と胸を張った。

今大会は初戦で1イニング28得点を奪い、県の最多得点記録を樹立。学校が創立100周年の年に爪痕は残せた」と誇らしげに球場を後にした。

霞ケ浦－鉾田二　2回裏霞ケ浦無死一、二塁のピンチでマウンドに集まる鉾田二ナイン＝ジェイコム土浦

慶応が敗れる

神奈川大会

全国高校野球選手権大会の出場校を決める地方大会は18日、各地で行われ、神奈川は、昨夏の甲子園大会を制した慶応が5回戦で、桐蔭学園に2－4で敗れた。横浜、東海大相模が準々決勝に進出。

昨春の選抜大会で優勝した山梨学院は準々決勝敗退。

◇ジェイコム土浦－第2試合

▽3回戦

鉾田二1000000｜1

霞ケ浦350000×｜8

（7回コールド）

▽三塁打　矢田貝▽暴投　篠、真仲▽捕逸　米川祐、片見▽試合時間　1時間47分▽審判　大橋、竹内啓、河島、内田

鉾田二打安点振球

⑦	1	6	菊地	2	0	0	1	1
⑧	4	5	小松原	3	1	0	1	0
⑤	4	4	石川	3	3	0	0	1
①	6	5	崎	2	1	0	0	1
			篠	3	0	0	3	0
②	3	3	米川祐	3	0	0	0	1
③	3	3	浜野	3	2	0	1	0
⑨	3	3	大鈴木	2	0	0	0	0
機	盗	失	併残					
0	0	1	0	4	2	3	0	7

霞ケ浦打安点振球

⑦	3	3	菊田	4	1	0	0	2
③	3	3	矢貝	2	2	1	0	1
③	3	3	羽成	2	1	1	2	1
H	1	1	山田	1	0	0	0	0
			乾	1	0	0	0	0
			市村	0	0	0	0	1
①	4	5	青井	3	1	1	2	0
⑤	4	4	真仲	4	3	1	2	0
②	3	3	鹿又	3	1	0	0	2
⑧	4	5	片見	3	1	0	0	2
機	盗	失	併残					
2	2	0	1	9	2	5	9	7

投	捕	回	数	打	安	振	球	失
篠	米川祐	1	2	8	4	1	1	5
菊地	米川祐	4	3	4	3	3	0	0
松原	米川祐	3	1	1	2	2	0	0
真仲	乾	5	1	18	3	4	1	1
市村	乾	1		3	0	0	1	0

令和６年７月19日(金)

茨城新聞

７月18日(木)

第106回全国高校野球茨城大会

-3回戦 vs 霞ヶ浦高校 J:COM土浦スタジアム球場-

鉾田一―霞ヶ浦　1回無死1、3塁、1塁に送球して併殺を完成させる霞ヶ浦の遊撃手・鹿又（走者・鉾田一の小原）（Jスタ土浦で）＝吉村悠撮影

令和６年７月19日(金)

読売新聞

７月18日(木)

第106回全国高校野球茨城大会

-3回戦 vs 霞ヶ浦高校 J:COM土浦スタジアム球場-

広報おみたま

令和６年８月号

８日(木)発行

（第 221 号）に掲載

農業科２年

山本康太さんの作品

農業の現場を体験
鉾田二高生が研修
収穫や出荷準備

県立鉾田二高（鉾田市鉾田、海老沢浩一校長）の先進農業研修が行われ、希望した農業科の生徒3人が1、2の両日、地元農家の農地や農業用ハウスで生産や収穫、出荷準備などの作業に汗を流した。

農業の現場を知ってもらおうと、毎年夏休みを利用して実施。研修開始に当たって海老沢校長は「学校外で農家の専門的なスキルが学べる貴重な機会になる」と述べた。

サツマイモ、ジャガイモなどを栽培する小沼藤雄さん方では、2年の菅谷春季さん(16)がサツマイモの収穫を体験。また、出荷準備としてサツマイモを入れる段ボール箱の組み立て作業などを行った。

イチゴやメロンなどの育苗を手がける山口正重（しょうじゅう）さん方では、いずれも1年の男庭優太さん(15)と松葉蒼空さん(15)が参加。イチゴ苗を育てているハウスで、外国人技能実習生らとともに、丈夫な苗に育てるために不要な葉を取り除く「葉かき」に取り組んだ。

男庭さんは「葉かきという作業があるのを初めて知り、改めてイチゴを育てる大変さを感じた。他の野菜の現場も見てみたい」と話した。

サツマイモの収穫を体験する鉾田二高の生徒（左）ら＝鉾田市舟木

令和６年８月15日(木)

茨城新聞

８月１日･２日

先進農業研修 2日間

ピザ作りや農場見学

鉾田二高 中学生が体験授業

県立鉾田二高（鉾田市鉾田、海老沢浩一校長）農業科・食品技術科の学科説明会が7日、同市徳宿の同校農場で開かれ、中学生らが体験授業などを通し各科の魅力に触れた。

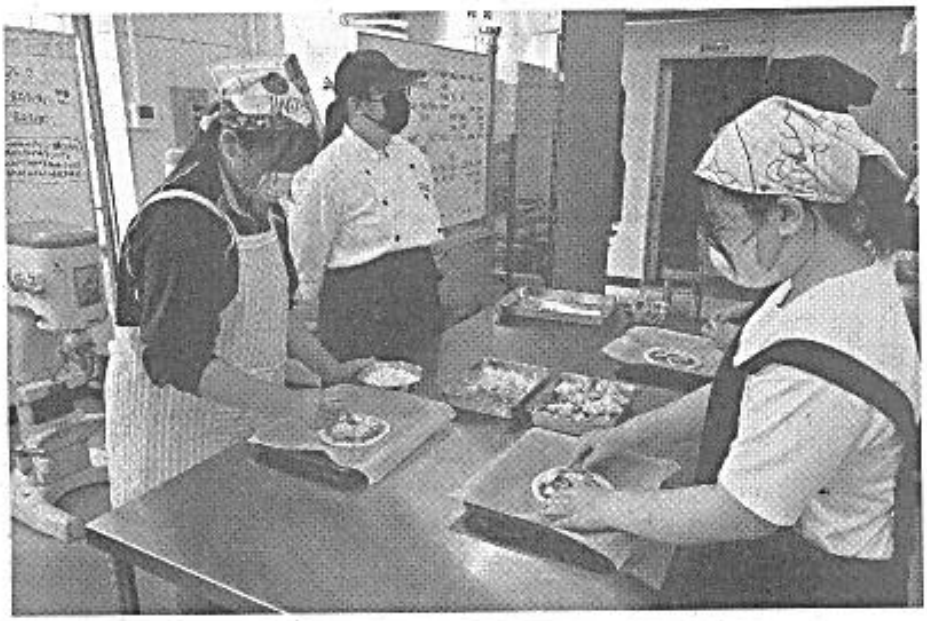
学科説明会は、入学希望者らに同校への理解を深めてもらおうと初めて実施。各科ごとに学科説明の後、それぞれ農業科で農場見学と、食品技術科でピザ作りの体験授業が行われた。

野菜や果樹、草花などの栽培を中心に、農業を実践的に学ぶという農業科では、同校教員や在校生とともに、実習などで使われる温室や果樹園を見学。栽培している野菜や果樹、草花について説明を受けた。

農作物の栽培や食品の加工を通して、食と農業の基礎的な知識、技術などの習得を目指すという食品技術科では、教員や在校生の指導の下、ピザ作りに挑戦。生地を混ぜ合わせたり、成形したりした後でソースを塗り、同校で取れたというナスやタマネギ、ピーマンと、チーズをのせて焼き上げた。

このほか学科説明では、各科で実習内容や、取得できる資格、進路などを紹介した。海老沢校長は「専門学科の魅力に触れてもらうことで、進路選択の一助になれば」と期待を寄せた。

（松本篤史）



ピザ作りの体験授業で具材をのせる中学生ら＝鉾田市徳宿

令和６年８月21日(水)

茨城新聞

８月７日

鉾田二高

農業科・食品技術科 説明会

農業など学ぶ高校生 育てた果物や手作りパンを販売 鉾田

09月20日　14時42分

農業や食品技術を学ぶ茨城県鉾田市の高校生が育てた果物や手作りのパンを販売しました。

これは県立鉾田第二高校が市内のＪＡの直売所で開き、農業科と食品技術科で学ぶ２年生、３０人ほどが販売を体験しました。
特設コーナーには授業で育てたという◇梨の「豊水」や◇シャインマスカットがずらりと並べられました。
生徒たちは「みずみずしいですよ」とか「大きいのがおいしいですよ」と声をかけると買い物客が品定めをして次々と買い求めていました。
手作りのメロンパンなども人気を集め、用意した１９０個は１時間ほどで売り切れていました。
市内の６０代の女性は「高校生が丹精込めた商品なので家族で楽しみます」と話していました。
農業科の男子生徒は「買ってもらえてうれしいです。見た目も味もよくできたと思うので味わっていただきたいです」と話していました。
食品技術科の女子生徒は「メロンパンは子どもからお年寄りまで食べやすいように甘さや柔らかさを工夫しました。好評だったのでうれしかったです」と話していました。

令和６年９月20日(金)

NHK水戸放送局(茨城 NEWS WEB)

９月20日

ホコノッコファンクラブ in なだろう

次代を拓く専門高校

茨城県立 大子清流高等学校

大子一高と大子二高が平成16年に統合されて誕生。社会の変化に主体的に対応できる個性的で創造性や国際性に富む、心豊かな人間の育成を目標とし、新たな夢や可能性に出会い、希望の実現に向けた歩みを続け、未来を拓く「人財育成」に取り組んでいる。

農林科学科(森林科学コース・農業科学コース)、総合学科(人文科学系列・自然科学系列・芸能系列)

茨城県立 水戸農業高等学校

明治28年創立で、「至誠・勤労・僧和」が校是。卒業生は3万人を超え、各分野で活躍する。定時制を含めた生徒数は全国農業高校屈指。50haの広大な敷地で、実践的・体験的な学習活動を展開し、地域の発展に貢献できる人材育成に取り組んでいる。

農業科、畜産科、園芸科、生活科学科、農業土木科、食品化学科、農業経済科、定時制農業科

茨城県立 常陸大宮高等学校

平成18年に大宮高校と大宮工業高校が統合されて開校。4年後には山方商業高校も加わった。校訓「挑戦　湧きあがれ　君の力」の下、自分の夢や希望に果敢に挑戦する気持ちを大切にし、地域・産業社会の発展に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。

普通科、機械・情報技術科、商業科

茨城県立 海洋高等学校

ひたちなか市和田町にある県内唯一の水産・海洋系高校。「自主協調・責任・勤勉・礼儀・忍耐」を校訓に実践的な学習を展開し、豊かな人間性と人格の完成を目指し、社会の発展に貢献し得る心身ともに健全な海洋技術者の育成に取り組んでいる。今年度創立90周年を迎えた。

海洋技術科、海洋食品科、海洋産業科

茨城県立 鉾田第二高等学校

「見つけよう熱き夢、伸ばそう自分らしさ」のキャッチフレーズのもと、各学科の特色を生かし、生徒一人ひとりの進路希望の実現を図るとともに、地域振興に貢献し、将来の社会を担うことのできる人材の育成を目指している。今年度、創立100周年を迎える。

農業科、食品技術科、総合学科

茨城県立 石岡商業高等学校

昭和39年に県南地区唯一の商業高校として創立された。中学生対象の出前授業、企業と連携した商品開発など、地域に密着した教育活動を展開している。社会に有為な調和のとれた人間の育成に努める。

商業科・情報処理科

令和６年９月20日(金)

日本経済新聞

次代を拓く専門高校

p.35　北関東経済

吉川さん（水戸農）知事賞

ネット依存テーマに主張

鉾田で県高校弁論大会

県高校秋季弁論大会（県高校文化連盟弁論部会主催）が21日、鉾田市鉾田の県立鉾田二高で開かれた。県内5校から10人の1、2年生が参加し、優勝の県知事賞には、若年層のインターネット依存について熱弁を振るった県立水戸農業高1年、吉川遥さん（15）が輝いた。

弁論は、持ち時間7分以内。生徒らは犬猫の殺処分や認知症、地球環境、共生社会、ジェンダーなどをテーマに持論を展開。論旨の明確さや表現力を競った。

県知事賞の吉川さんは「バランス依存生活術」の演題で登壇。「依存と情熱は表裏一体。両者とも本質は強い興味と熱意だ」と訴えた。

一方で、「一つのことに依存するのは良くない。依存先を失った時、そのバランスを崩してしまう」と強調。一つのことに情熱を100％つぎ込むのではなく、多くの物事に少しずつ依存する「バランス依存」によって、心の安寧が保てると主張した。

閉会式で、審査委員長を務めた同弁論部会長の高野美有紀県立守谷高校長は「情報を正しく理解、整理し、議論することや、問題意識を言葉に乗せて表現することは大事なこと」とし、「弁論を通して、つながれる仲間を増やしてほしい」と述べた。

本大会の上位2人は県代表として、11月に金沢市で開かれる文科大臣杯全国青年弁論大会に出場する。吉川さんは「優勝できるとは思っていなかったのでうれしい。内容には自信があった。（全国大会では）上位を狙いたい」と語った。

（松本熊史）

上位入賞者は次の通り。（敬称略）

県知事賞　吉川遥（水戸農業高1年）▽県議会議長賞　小又匠人（太田一高2年）▽県教育長賞　山田結愛（水戸二高2年）▽県高校文連弁論部会長賞　小沢楓（太田一高1年）

県高校秋季弁論大会で知事賞に輝いた吉川遥さん＝鉾田市

令和６年９月22日(日)　茨城新聞

９月21日(土)

主管校：鉾田二高(4名出場　特別賞①・優良賞①・奨励賞②)

県高校秋季弁論大会

生徒手掛けたナシや菓子

鉾田二高 スーパーで販売会

ナシなどを販売する県立鉾田二高の生徒ら＝鉾田市鉾田

県立鉾田二高（鉾田市鉾田、海老沢浩一校長）の生徒らが13日、同市鉾田のファーズマーケットさえき鉾田店で、栽培したナシや製造した菓子などの販売会を開いた。

販売会は、学習成果の発表と職業観育成、地域貢献の意識を高めることなどを目的に実施。農業科2年生2人と食品技術科3年生3人が参加した。同所での販売は、12月まで月1回程度予定しているという。

生徒たちが栽培したナシのほか、実習で製造したメロンパンやガトーショコラ、シフォンケーキ、マドレーヌを販売。午後4時の販売開始から多くの買い物客が列を作り、生徒らは会計や袋詰め作業に追われた。

農業科の山田哲平さん（16）は「自分たちで作ったナシをたくさんの人が買ってくれたのでうれしい。販売を通し、お客さんとコミュニケーションを取れて良かった」と話し、食品技術科の大川玲菜さん（18）は「製造工程では大変なこともあるが、出来上がった時の喜びは大きい。より多くの人においしい物を届けられるように頑張りたい」と笑顔を見せた。

同校では20日に、JAほこた農産物直売所「ファーマーズマーケットなだろう」（同市飯名）でも同様の販売会を実施した。

（松本篤史）

令和６年９月24日(火)

茨城新聞

９月20日

ホコノッコファンクラブ in さえき

地域資源で農村振興を

鉾田二高 東京農大助教が講義

県立鉾田二高（鉾田市鉾田、海老沢浩一校長）で18日、東京農大食料環境経済学科の長尾真弓助教を招いた講義「農村資源活用の仕組みをつくる」が開かれた。総合学科の2年生約30人が受講し、6次産業化やマーケティングについて理解を深めた。

長尾助教は6次産業化について「地域資源を用いて農村振興を図ること」と強調し、資源の発掘、磨き上げに加えて、他分野と組み合わせて新たな価値をつくり出す「農山漁村発イノベーション」で農村振興が図れると説いた。

地域資源の具体例として野生動物を食肉として活用する「ジビエ」を紹介。捕獲から食肉処理までの安全性や、一般にはなじみがなく流通量が少ないといった消費面で課題があると指摘した。

ジビエ利用が高まるためには「安全なジビエが生産、販売され、食される仕組みづくりが欠かせない」と述べた。マーケティング面では「商品を需要者に合わせる必要がある」とし、最後に「皆さんの食の選択が農村の資源活用の仕組みとなり、農業、農村の持続性を高める」と呼びかけた。

講義を聴いた同学科2年、菊地哉大さん(16)は「なじみのなかったジビエや、流通の話に興味を持つことができた。マーケティングを学ぶ上で参考にしたい」と感想を述べた。

（松本篤史）

講義する長尾真弓助教＝鉾田市鉾田

令和６年９月26日(木)

茨城新聞

９月18日(水)

外部指導者招聘による農業に係る出前授業②

先進農家で農業実技研修

茨城・鉾田第二高等学校

夏休み利用し、農業科3人が参加

葉かきを学ぶ松葉さん（左）

【茨城】鉾田市の県立鉾田第二高等学校ではこのほど、2日間にわたり先進農業研修を開催。農業科の生徒3人が参加し、同市でサツマイモやジャガイモなどを栽培する小沼藤雄さん、イチゴやメロンなどを栽培する山口正重さんの圃場で研修した。

山口さんの圃場では、生徒たちがイチゴ苗の葉かきを学んだ。苗の風通しを良くするためにランナーや余分な茎を摘む作業で、生徒は山口さんの実習生のサポートを受けながら残す茎以外を慎重に摘み取っていた。

1年生の松葉蒼空（そら）さんは「最初は見分けるのが難しかった。実家がイチゴ農家なので跡を継ぎたい」と汗を拭った。農業科の益子透教諭は「チャレンジ精神を持って楽しく仕事をしてほしい。農業にやりがいを感じて職業にしてもらえたらうれしい」と力強く話した。

研修は、同市の農家で実践的な農作業や豊かな人間関係作りを学ぶため、夏休みを利用し有志の生徒が参加している。

令和６年９月27日(金)

全国農業新聞(東日本版)

８月１日(木)・２日(金)

先進農業研修 ２日間

先進農家で農業実技研修

茨城・鉾田第二高等学校

夏休み利用し、農業科3人が参加

葉かきを学ぶ松葉さん（左）

【茨城】鉾田市の県立鉾田第二高等学校ではこのほど、2日間にわたり先進農業研修を開催。農業科の生徒3人が参加し、同市でサツマイモやジャガイモなどを栽培する小沼藤雄さん、イチゴやメロンなどを栽培する山口正重さんの圃場で研修した。

山口さんの圃場では、生徒たちがイチゴ苗の葉かきを学んだ。苗の風通しを良くするためにランナーや余分な茎を摘む作業で、生徒は山口さんの実習生のサポートを受けながら残す茎以外を慎重に摘み取っていた。

1年生の松葉蒼空（そら）さんは「最初は見分けるのが難しかった。実家がイチゴ農家なので跡を継ぎたい」と汗を拭った。農業科の益子透教諭は「チャレンジ精神を持って楽しく仕事をしてほしい。農業にやりがいを感じて職業にしてもらえたらうれしい」と力強く話した。

研修は、同市の農家で実践的な農作業や豊かな人間関係作りを学ぶため、夏休みを利用し有志の生徒が参加している。

令和６年９月27日(金)

日本農業新聞(東日本版)

８月１日(木)・２日(金)

先進農業研修 ２日間

いばらき春秋

2024.10.7

イベントを円滑に行うためには準備が重要とされる。主催者は企画立案や会場の確保、経費の捻出、日程の周知、当日の進行管理といった業務について、打ち合わせを重ねて本番に挑む▼県高校秋季弁論大会が先月、県立鉾田二高（鉾田市鉾田）で開かれた。生徒10人が自らの体験に基づき熱弁をふるった。張りつめた空気に包まれた会場で、発表を終えホッとした表情を見せる参加者の姿が印象深かった▼大会の運営は鉾田二高の生徒が担った。司会や発表時間の計測、審査結果の集計といった業務を分担し、滞りない進行に役割を果たした。弁士としても出場する二役をこなした生徒もいた▼石破茂首相が衆院選を27日投開票の日程で行うと表明し、立候補予定者は臨戦態勢に入った。各陣営は支持拡大を狙い準備を本格化させる。選挙運動にも事務所に常駐して指揮を執る責任者をはじめ、多くのスタッフが関わる▼選挙期間中、知名度が高く演説のうまい応援弁士を呼ぶ陣営もあるだろう。立候補予定者や、そのスタッフにとっては、これからがいよいよ正念場である▼衆院解散・総選挙を想定して進めてきた準備の成果が問われる。厳しい暑さはようやく収まってきたが、選挙戦は熱くなりそうだ。（柴）

令和６年 10 月７日(月)

茨城新聞　いばらき春秋

９月 21 日(土)

主管校：鉾田二高(4 名出場 特別賞①・優良賞①・奨励賞②)

県高校秋季弁論大会

児童招き稲刈り体験
鉾田二高生サポート

鉾田市鉾田の県立鉾田二高（海老沢浩一校長）は1日、同市徳宿の同校農場近くの水田に市立鉾田北小（田口雅偉校長）の5年生約70人を招き、稲刈り体験を実施した。農業科の1、2年生約30人が児童たちにアドバイスしたり、稲刈りの手本を見せたりするなど、体験をサポートした＝写真。

体験を前に、同高の教員が鎌を使った稲刈りの手順を披露。生徒らは、黄金色に実った稲を一生懸命刈り取る児童たちに「利き手で鎌を持って」「反対の手で稲をしっかり持ったら、力強く鎌を引いて」などと声をかけ、作業を補助した。児童たちは、高校生との会話を楽しみながら笑顔で稲を刈っていった。

松葉青依さん(11)は「農家の人の大変さが分かった。（高校生には）刈る時は引いた方が良いと教えてもらえた。おいしいお米になっていると思う」と笑顔を見せた。同科1年の大貫友喜さん(16)は「鎌を使うので、けがをしないよう近くで見守った。お米をおいしく食べてもらいたい」、同じく宮内七海さん(15)は「一から作物を育てることで、農業に関心を持ってほしい。大切に食べてもらえれば」と話した。

令和６年 10 月 11 日(金)

茨城新聞

10 月 1 日(火)

鉾田北小学校５年生の稲刈り体験学習

高校生と園児がサツマイモ掘り 鉾田

10月29日　14時53分

農業科がある茨城県鉾田市の高校で、夏になる前に畑に苗を植えたサツマイモが収穫の時期を迎え、生徒と地元の幼稚園児が芋掘りに取り組みました。

県立鉾田第二高校では、農業科の２年生と近くの幼稚園の子どもたちがことし６月に敷地内の畑に苗を植えた「紅はるか」というサツマイモが収穫の時期を迎えました。
２５日、生徒と園児あわせて５０人ほどが畑に集まり、芋掘りに取り組みました。
作業用の手袋をつけ長靴をはいた子どもたちが生徒のサポートを受けながら、１５センチから２０センチほどの芋を次々に掘り出していました。
作業のあと、子どもたちは「楽しかった」とか「焼き芋にして食べたい」と話していました。
男子生徒の１人は「子どもたちが笑顔で作業していたのでよかったです。農業の楽しさを伝えられたらうれしいです」と話していました。
サツマイモは園児が家に持ち帰ったほか、来月幼稚園で開く催しでスイーツにして味わうということです。

令和６年 10 月 29 日(火)

NHK 水戸(茨城 NEWS WEB)

10 月 25 日(金)

幼稚園児の自然体験学習 サツマイモ掘り

高校生と園児 芋掘り交流

茨城県鉾田市

【いばらき】茨城県立鉾田第二高校は10月下旬、鉾田市の同校農場で、市内の幼稚園児たちを対象に自然体験学習を行った。生徒が園児と保護者にサツマイモ掘りを指導し、農業の魅力を伝えた。

同校が、地域の幼稚園や小中学校に行う自然体験学習の一環。今回は市立鉾田幼稚園の園児22人と保護者らが参加した。

この日は、農業科2年生23人が指導役として参加。「土を掘って、つるを両手で持ち優しく引き抜いて」などとサツマイモ掘りの手順を丁寧に教えた。

生徒たちの指導を受けながらサツマイモを収穫する園児ら（茨城県鉾田市で）

令和６年１１月３日(日)

日本農業新聞　北関東ページ

１０月２５日(金)

幼稚園児の自然体験学習　サツマイモ掘り

鉾田

鉾二生 園児と収穫作業

鉾田市の県立鉾田二高の農場で、このほど、同校の生徒が"先生"役を務めるサツマイモ掘りの体験会が開かれ、近くの鉾田幼稚園の園児22人が参加した＝写真。

地域の子どもたちに、自然や農業にふれてもらおうという同校農業科の恒例の取り組み。

サツマイモの苗は、5月に園児と一緒に植えた。高校生たちが掘り方の手本として、立派なサツマイモを掘り起こすと、園児たちは「大きい！」と、大歓声。

その後は、高校生と園児が畝(うね)を挟んで向かい合い、協力して掘り起こした。サツマイモが重くてなかなか抜けず、泣き出してしまう子もいたが、無事に10ケース分を収穫した。

サツマイモは園に持ち帰って、焼き芋会などを開いて食べるという。

「サツマイモはとっても重かった」とは、同園の若林岳君（6）。

農業科2年の高橋雄哉さん(17)は、「子どもたちと一緒に収穫して、収穫の喜びが何倍にもなった」と笑顔だった。

令和６年１１月７日(木)

よみうりタウンニュース

１０月２５日(金)

幼稚園児の自然体験学習　サツマイモ掘り

鉾田二高で園児 サツマイモ掘り

鉾田市鉾田の県立鉾田二高（海老沢浩一校長）は10月25日、同市徳宿の同校農場に市立鉾田幼稚園（小沼一夫園長）の園児22人を招き、サツマイモの収穫体験を行った。農業科の2年生23人が園児らをサポートし、秋の味覚を収穫した。

軍手と長靴を身に着けた園児たちは、生徒らの説明を受けた後で畑に入り、6月に苗を植えたサツマイモの「ベニハルカ」を収穫。生徒らと協力して周囲の土を取り除いたり、掘り起こしたりして、大きく育ったイモを手にしていた。

サツマイモを収穫する園児ら＝鉾田市徳宿

収穫後は農場で飼育する牛の餌やりを体験。9月に生まれたという子牛の見学も楽しんだ。

体験後、肘井翔太さん(17)は「元気で楽しそうに収穫してくれて良かった。おいしく食べてもらいたい」と笑顔を見せた。小沼園長は「学校、生徒のおかげでこのような体験ができ、ありがたい。園児も生徒も楽しそうな様子が見られて良かった」と話した。

令和６年１１月７日(木)

茨城新聞

１０月２５日(金)

幼稚園児の自然体験学習　サツマイモ掘り

鉾田

折り紙の驚きの世界

市美術展に向けて、鉾田第二高等学校2年の方波見涼太郎さんは、折り紙の作品制作に取り組んでいる。昨年の市美術展で方波見さんの作品は「教育長賞」を受賞している。10月中旬に安房のお宅を訪ね、お話を聞いた。

方波見さんの折り紙は「スーパーコンプレックス折り紙」といい、1枚の紙（62×62㎝が多い）を指だけで折っている。その緻密さにはただただ驚くばかり。初めて見た人は「これはいったいどんな風にして作ったのだろう」と思うに違いない。昨年の美術展でも、作品搬入時に大勢の大人から質問攻めにあったという。

方波見さん

「スーパーコンプレックス折り紙を知ってもらうのは、うれしい」と方波見さん。

母のひろみさんによると、保育園のころから折り紙に興味を持ち、本を見ながら自分でどんどん立体的なものまで折るようになっていったという。現在は部活の時間に折り、自宅でも暇があるとよく折っている。

フェニックス
インスタグラムから

今年の作品はただ今構想中で、タイトルも決まっていないが、立体アート風にしたいという。1作品仕上げるのには、7～8時間かかる。美術展（12月8～15日、鉾田市公民館）では、ぜひ多くの人にスーパーコンプレックス折り紙を観ていただきたい。国内でも愛好者はまだ少ないそうで、海外の人ともインスタグラムで作品を見せ合い、技をみがいているという。インスタグラム・アカウント k.r.origami

（光）

令和６年１１月１０日(日)

マイ・タウン２１

１２月８日(日)～１２月１５日(日)

美術展 鉾田市公民館で開催

鉾田二高創立100年 市が100万円を寄付

記念事業推進

鉾田市は、県立鉾田二高創立100周年記念事業の趣旨に賛同し、同校に100万円を寄付した。今月23日には同事業の一環として記念式典（同事業実行委員会主催）が開かれる。

贈呈式は6日、同市鉾田の市役所で開かれ、岸田一夫市長が海老沢浩一校長に目録を手渡した。岸田市長は「歴史のある、地元にとって大事な学校。市もバックアップすることで、基幹産業である農業を支えてもらいたい」とあいさつ。海老沢校長は寄付に謝意を伝えた上で「式典の準備を着々と進めている」とし、記念事業の推進に意欲を示した。

記念事業は式典のほか、記念講演、モニュメントクロック設置、記念誌発行などを予定している。

海老沢浩一校長（左）に目録を渡す岸田一夫鉾田市長＝同市鉾田

令和６年11月15日(金)

茨城新聞

11月６日(水)

100周年記念式典事業 鉾田市が本校に100万円寄付

食品衛生 生徒ら学ぶ

鉾田二高 東京農大准教授が講義

県立鉾田二高（鉾田市鉾田、海老沢浩一校長）で8日、東京農業大栄養科学科の秋山聡子准教授を招いた講義「食品加工・調理をする責任」が開かれた。食品技術科の1年生24人が受講し、食事を提供する責任や、食中毒予防の三原則などについて理解を深めた。

秋山准教授は、生徒らに「皆さんは今後加工した食品を販売し、対価（お金）を頂く立場になる」と強調。自らが調理した物を他者が食するという認識を持つことが重要で、「食中毒を起こしてはいけないという責任がある」と述べた。

その上で食中毒菌を「付けない、増やさない、やっつける」といった食中毒予防の三原則を解説。手洗いの必要性、布巾やまな板の使い分けのほか、温度管理をしたり、調理器具を殺菌したりする大切さを説いた。

最後に「今後加工した食品に対して、お金を払ってもらうことで、皆さんは食品加工のプロになる。日常生活でも食品衛生について意識してほしい」と呼びかけた。

講義を聴いた鈴木愛夏さん(16)は「手洗いや調理器具を殺菌する重要性が学べた。実習の際に食中毒を防げるよう今日の話を参考にしたい」と感想を述べた。

（松本篤史）

講義する秋山聡子准教授＝鉾田市鉾田

令和６年１１月１５日(金)

茨城新聞

１１月８日(金)

外部指導者招聘による農業に係る出前授業

(食品技術科 １年)

鉾田二高で和菓子作り

県菓子工業組合が指導

県菓子工業組合（大槻和行理事長）は10月21日、鉾田市の県立鉾田二高で行われた製菓実習の授業で同校の食品技術科製菓製パンコースの2年生17人に和菓子作りを指導した。今年で5年目。

生徒たちは、大槻理事長の指導の下、菊・キキョウ・紅葉の練り切り作りを行った。

はじめに、大槻理事長が練り切り作りの作業工程を生徒たちに説明しながら実演＝写真。その後、生徒たちは白あんに色を付ける作業や、練り切りあんに三角ベラで筋を入れる成形に苦戦しながら、練り切りを作り上げた。

同組合は、同校食品技術科の2コース（製菓製パンコースおよび農産物利用コース）の生徒たちを対象に、各コース年間5回・計10回、練り切り、おはぎ、大福等の和菓子作りの指導を行っている。和菓子作りを通じて、和菓子の魅力を知ってもらうことで、和菓子の需要喚起と後継者育成につなげることが目的。

令和６年 11 月 18 日(月)

茨城新聞

10 月 21 日(月)

食品技術科 製菓・製パンコース 和菓子作り

鉾田二高 創立100年

記念式典、飛躍誓う

創立100周年を迎えた県立鉾田二高の記念式典＝鉾田市鉾田

県立鉾田二高（海老沢浩一校長）の創立100周年記念式典が23日、鉾田市鉾田の同校で開かれ、在校生や教職員、同窓会員ら関係者が1世紀の歩みを振り返るとともに、さらなる飛躍を誓った。

同校は、1924年に鉾田町外八ケ村組合立実科高等女学校として開校。誠実、勤勉、協和を校訓とし、自ら学び自ら成長する態度を備え、将来の社会を担うことのできる人材輩出を目指している。昨年度までの卒業生は約2万8千人に上るという。

式典には全校生徒のほか、来賓の田山東湖県議や長谷川重幸県議、岸田一夫鉾田市長ら約900人が出席。記念事業実行委員会の本沢徹委員長は関係者の支援に謝意を示し、「地域に根差した高校として発展してきた。次の100年につなげるため、魅力ある学校づくり、教育環境の整備が重要となる」とあいさつした。

海老沢校長は「輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、より一層発展させていくことが在校生および教職員に課せられた使命」と式辞。

生徒代表の中薗未来好香（みらいよしか）さんは「素晴らしい伝統を未来へとつなげるために先陣を切って活動していかなければならない。一人一人が自分の可能性を広げ、切磋琢磨（せっさたくま）しながら高みを目指していく」と今後の躍進を誓った。

創立100周年に当たり、記念誌や同窓会名簿の発行、絵画（3点）の設置などの記念事業に取り組んだほか、この日は前駐豪大使で笹川平和財団上席フェローの山上信吾氏による記念講演、来年度からの新制服披露も行われた。

（松本篤史）

令和６年11月27日(水)

茨城新聞

11月23日(土)

鉾田第二高等学校 創立100周年記念式典

本格イタリアンに挑戦

鉾田二高 プロ招き調理実習

小原健二さん（手前右）の指導を受け、調理に取り組む鉾田二高の生徒ら＝鉾田市徳宿

県立鉾田二高（鉾田市鉾田、海老沢浩一校長）は11月26日、同市徳宿の農場実習棟で外部講師を招いた調理実習を行った。食品技術科食品加工コースの3年生18人がリゾットやカルパッチョ作りに挑戦し、本格的な調理技術を学んだ。

講師を務めたのは、イタリアンレストラン「パスタイオ・ジェノヴァ」（那珂市鴻巣）のシェフ、小原健二さん。この日はポルチーニ茸のリゾットと、サーモンのカルパッチョの作り方を指導。

生徒に手本を示しながら授業を進め、「ポルチーニ茸は引き立て役で香りを楽しむキノコ。イタリアンには欠かせない」などと食材の特徴や、イタリアンの知識、包丁の動かし方をはじめとする技術を伝えた。

生徒たちは、慣れた手つきで調理し、小原さんサポートの下で2品を完成。このほか、ガトーショコラの作り方も教わった。

ポルチーニ茸を初めて使ったという栗俣青弥さん（17）は「プロの技で、クリーミーでおいしいリゾットができた。今日学んだことを普段の調理にも生かしたい」と笑顔を見せた。

令和６年 12 月５日(木)

茨城新聞

11 月 26 日(火)

社会人講師による実習

(食品技術科３年)

農産物ブランド化考える

鉾田二高 東京農大教授が講義

外部講師から専門的で高度な農業経営・技術などを学んでもらおうと、県立鉾田二高（鉾田市鉾田、海老沢浩一校長）で、東京農大農学科の高畑健教授を招いた講義「農産物のブランド化」が開かれた。農業科の2年生22人が受講し、地域の農産物をブランド化する方法などについて理解を深めた。

高畑教授は、価値のある商品に特別な名前やデザインを付けて、ほかの商品などとの違いや特色を出す取り組みを「ブランド化」と前置き。ブランド化が成功すると、競争の優位性を獲得でき「高くても買ってもらえる」とした。

地域独自の生産方法で高品質を維持する農林水産物や食品を知的財産として守る「地理的表示（GI）保護制度」も説明。夕張メロンや米沢牛、万願寺甘とう、善通寺産四角スイカなどの例を示した。

地域の農産物をブランド化させる方法として、競合商品との差別化▽一定以上の品質▽知名度の獲得―を挙げ、「安売りはしない。商品のファンが増えれば、長期的な売り上げにつながる」と強調した。

最後に、同大が普及を目指す、南米原産でメロンのような味と香りがするというナス科の野菜「ペピーノ」について解説。1980年代にニュージーランドから導入、日本でも栽培されたが定着しなかったことや、同大オリジナルの栽培方法、企業との取り組みなどを伝えた。

（松本篤史）

講義する東京農大農学科の高畑健教授＝鉾田市鉾田

令和６年 12 月 17 日(火)

茨城新聞

11 月 28 日(木)

外部指導者招聘による農業に係る出前授業

(農業科 ２年)

国際社会へ高校生主張

知事賞に中薗さん（鉾田二）

水戸で弁論大会

県内の高校生が国際社会への意見発表などを通じて世界で活躍する力を養う催し「第21回日本発／世界発　青年のメッセージ」が12日、水戸市千波町のザ・ヒロサワ・シティ会館で開かれ、発表に臨んだ10人が熱弁を振るった。1位に当たる知事賞には鉾田二高2年の中薗未来好香（みらいよしか）さん(17)が選ばれた。

県国際交流協会と県高等学校国際教育研究協議会が主催した。2部構成で開かれ、前半の国際教育弁論大会では、生徒らが持ち時間5分で国際支援や言葉の違いなどさまざまなテーマに関する自身の体験や考えを披露。後半は、県内の大学に留学する海外出身の留学生を招いたシンポジウムが行われ、留学生が自国の文化や教育制度などを紹介した。

弁論で中薗さんは「言葉の先へ笑顔を届ける」と題し、自身の母親がフィリピン出身であり、言葉の壁により言い合いに発展してしまう場合がよくあることを明かした上で、「どんなに言語が通じ合えなくても母の作ってくれる料理のおかげで幸せな笑顔に戻る」と紹介。母校のある鉾田市は農業が盛んなため、同市の特産品を活用したスイーツを開発し、「人を笑顔にする、母の料理のようなスイーツを通して言葉の壁をなくしていきたい」と力を込めた。

シンポジウムでは県内大学で学ぶウクライナ、中国、スリランカ出身の留学生が、それぞれ来日した経緯や日本で生活していく上で疑問に思ったことなどを率直に語った。

（川崎陸）

知事賞に選ばれた鉾田二高２年の中薗未来好香さん＝水戸市千波町

令和６年 12 月 18 日(水)

茨城新聞

12 月 12 日(木)

-第 61 回国際教育弁論大会-

第 21 回「日本発／世界発：青年のメッセージ」

最優秀賞(県知事賞)　２年７組　中薗（なかぞの） 未来好香（みらいよしか）さん

鉾田二高生育てた花や野菜の販売会

加工品も人気

県立鉾田二高（鉾田市鉾田、海老沢浩一校長）は8日、同市徳宿の同校農場で生徒たちが育てた花や野菜、加工品の販売会を開催した。会場は開始前から行列ができるなど、多くの来場者でにぎわった。

販売会は同校をPRするとともに、消費者や地域住民らと交流を深めるのが狙い。2020年に同校と統合した県立鉾田農高の恒例行事だった。

会場ではシクラメンの鉢植えやネギ、サツマイモなどの農作物のほか、メロンパン、シフォンケーキ、ジャムといった加工品を販売。各販売所に長蛇の列ができる中、農業科と食品技術科の生徒らは会計などの作業に追われながらも笑顔で接客していた。

同祭には同校PTAも全面協力。生徒の昼食約200食分を用意するなど、活動を支えた。

パンや菓子の製造、販売に携わったという食品技術科3年、宮崎愛梨さん(17)は「みんなで試作し、万人受けする商品を作れるよう心がけた。多くの人に食べてもらえるのがうれしい」と笑顔を見せた。

シクラメンを買い求める一般客ら＝鉾田市徳宿

令和６年12月22日(日)

茨城新聞

12月８日(日)

農産物・加工品販売会(農業科・食品技術科)

特養施設に高校生
福祉の理解深める

鉾田、RCが活動支援

鉾田市鳥栖の特別養護老人ホーム「鉾田サンハウス」で9日、県立鉾田二高（同市鉾田、海老沢浩一校長）の生徒2人がボランティア活動を実施した。高齢者との触れ合いを通し、福祉への関心と理解を深めた。

施設利用者と交流する高校生（右）ら＝鉾田市鳥栖

活動は鉾田ロータリークラブ（RC）が支援。介護を必要とする高齢者の生活などを知り、自身の将来を考える一助にしてもらうことを目的としている。

同校総合学科福祉系列で学ぶ2人は、パンケーキを作って提供したり、菓子などが当たるくじ引きや、ペットボトルを使ったボウリングをしたりして、施設利用者との交流を図った。

同校3年の相川優佳さん(17)は「一人一人個性があるので、相手に合った接し方をすることが大事だと学んだ」と話し、同じく沼里美佳さん(18)は「明るい雰囲気の中、皆さんに楽しんでもらえたので良かった」と笑顔を見せた。

同RCでは、年度内に鉾田一高生による支援も行う予定という。

令和６年12月25日(水)

茨城新聞

12月９日(月)

福祉施設でのボランティア活動

農産物販売会 1時間で完売

茨城県立鉾田第二高

【いばらき】茨城県立鉾田第二高校は12月上旬、鉾田市の同校農場で、農業科と食品技術科生徒が生産・加工した農産物などを一般に販売する農産物・加工品販売会を開いた。

季節の花や旬の農産物、菓子類など多数が出品され、開場1時間後にはほぼ売り切れになるほどの盛況だった。農業科、食品技術科の生徒計171人が販売員として参加した。

販売したのは、シクラメン、洋梨、ブドウ、サツマイモ、ハクサイ、長ネギ、米などの農産物17品目と、メロンパン、ベーグル、イチゴジャムなど加工品12品目。学校行事の格安販売とあって、複数個買い求める購入者が多かった。

販売員を務めた生徒は「自分たちが育てた花や農産物を喜んでもらえて、とても充実した販売会になった」と話した。

ポップコーンなどの加工品を販売する鉾田二高生（茨城県鉾田市で）

令和6年12月25日(水)

日本農業新聞　北関東ページ

令和6年12月8日(日)

農産物・加工品販売会(農業科・食品技術科)